

かゑらじと かねて思へハ 梓弓  
なき数に入る 名をぞとどむる  
四條畷に散った若き武将、楠正行

楠正行通信 第56号

平成29年10月10日

発行＝四條畷楠正行の会

〒575-0021 四條畷市南野5丁目2番16号

四條畷市立教育文化センター内 072-878-0020

四條畷楠正行の会発足3周年記念事業

## 武士道の人、楠正行 今、蘇る！

10月28日、四條畷神社・神社会館で開催

と き 10月28日(土)  
午後2時～午後4時(開場1時30分)  
ところ 四條畷神社・神社会館2階

田辺聖子曰く

「ロマンチックで気持ちの真っ直ぐな人」

四條畷楠正行の会は、平成26年11月発足以来、郷土、四條畷の誇り、歴史上ゆかりの人物、四條畷神社に祀られています楠正行について学び、残された史料や史実、伝承、文献等からその人物像を繙く作業を進めています。

そして、これらの活動を通して、楠正行を顕彰し、次代を担う子どもたち等を通じ、後世に永く、広く、語り伝えられることを願っています。

この度、発足3周年を機に、四條畷楠正行の会発足3周年記念事業「武士道の人、楠正行 今、蘇る！」事業を開催いたします。

四條畷の歴史、とりわけ楠正行や楠氏、南朝等にご関心のお持ちの皆様のご参加をお待ちしております。

なお、事前のお申し込みは不要です。当日、直接会場にお越しください。また、入場は無料です。

会場の四條畷神社・神社会館は、JR学研都市線・四條畷駅から徒歩約15分です。コミュニティバスご利用の場合、四條畷駅発13:00、13:10、13:40の便(田原1ルート・田原6ルート)をご利用いただけます。

会場には駐車場がありませんので、お車でのご来場はお断りしています。よろしくご協力ください。

当日のプログラムは以下の通り予定しています。

### 基調講演

#### 今、何故 楠氏一族を取り上げるのか

— 産経新聞、楠木正成考特集 秘話 —

講師 産経新聞特別記者編集委員 安本寿久氏

産経新聞は、平成28年3月25日、「戦後71年 楠木正成考 『公』を忘れた日本人へ」と題し、超ロングランの特集記事を掲載し、今、日本中に楠公ブームを巻き起こしています。

講師におよびする安本寿久氏は、この取材チームのヘッドとして活躍しておられる記者で、取材活動で入手した情報の中で、新聞記事にならなかった秘話をお話しいただく予定です。乞う、ご期待ください。

安本記者は、大阪社会部次長、編集局次長兼総合編集部長、編集長などを経て、現在は特別記者編集委員。著書に「評伝廣瀬武夫」、共著に「親と子の日本史」「坂の上の雲をゆく」などがあります。

### 正行絵本完成プレゼンテーション

#### 「くすのきまさつら」(6分冊1巻本)完成!

発表 大阪電気通信大学総合情報学部

デジタルゲーム学科 木子香講師と学生

四條畷楠正行の会がクライアントとして依頼した『楠正行の絵本制作』を受けていただいた木子香講師のもとには、19人が学生が集まり、6グループに分かれて、「正行の学び」「正行の友」「正行の恋」「正行の情け」「正行の大志」「正行の最期」のテーマ別に、6分冊1巻本の正行絵本を制作しました。

楠正行について講義を受け、ゆかりの地を訪ねて現地学習を重ね、7月に絵本制作を開始、夏休み返上で制作に取り組んでくれました。

この日、完成した楠正行の絵本が初めて公開されます。乞う、ご期待です。なお、この絵本は、四條畷図書館に寄贈され、四條畷の子どもたちに読んでいただくこととなります。

## 特別出演

### ● 四條畷市詩吟連盟／吟詠

楠氏に関わる「零丁洋を過ぐ」「楠公 子に訣るるの図に題す(桜井の訣別)」「小楠公の母を詠ず」「小楠公の墓を弔う」「楠公を詠ず」の5題を吟じていただきます。

零丁洋を過ぐは、朱舜水が楠正行像賛に引用した文天祥(南宋の状元宰相)の有名な七言律詩で、扇谷のリクエストで吟じていただきます。

### ● ひまわりコーラス／コーラス

楠正行と言えば、というよりも楠氏と言えば、誰しもが知っている歌、「青葉茂れる桜井の(桜井の訣別)」「四條畷(小楠公)」2曲と、「ふるさと」を謳っていただきます。

桜井の訣別は、あまり知られていませんが、15番まであります。岡山後樂園に『湊川』歌曲碑が建っているとのことです。

### ● さくら会／踊り

各地の老人ホームや社会福祉施設等を訪問し、慰問活動を進めるなど幅広く活動している踊り好きの皆さんに、「河内音頭」「河内酒」「楠公まつり」を踊っていただきます。

## 四條畷楠正行の会発表

### 朱舜水作・楠正行像賛発見の感動物語！

四條畷楠正行の会代表 扇谷 昭

江戸時代の初め、加賀藩・前田綱紀は狩野探幽に楠公父子訣別図を描かせます。そして、そこに掲載する賛文を明から亡命してきた朱舜水に依頼します。

この賛分、楠正成像賛は、水戸藩・徳川光圀が神戸湊川に建立した「嗚呼忠臣楠子之墓」の碑陰に刻んだことで世に出、そして有名になり、幕末、吉田松陰ら尊王の志士たちの多くがこぞって墓参に訪れました。

楠正行研究を進めてきた扇谷昭は、父子訣別図の賛文であれば、父のみならず、子にも作っているはずと考え、探し求めた結果、平成27年3月16日、遂に国立国会図書館関西館で稲葉君山編「朱舜水全集」(朱舜水先生文集巻之十七)に載る楠正行像賛を発見しました。

史料の少ない正行。この発見の感動と喜びの物語をお

伝えします。

なお、この日、四條畷楠正行の会が制作しました「正行像賛扇子」(1本2500円。7寸5分25間型・唐木染骨使用・表フルカラー・裏白黒・紙箱入り)の展示・販売も致します。

## 9/27 後醍醐天皇陵正辰祭開かれる 如意輪寺で後醍醐天皇忌法要

### 天皇陵内での拝礼に、感激！

9月27日、吉野山如意輪寺境内の後醍醐天皇陵で「後醍醐天皇塔尾陵正辰祭」が、また同寺本堂で「後醍醐天皇忌法要」が営まれ、四條畷楠正行の会代表、扇谷昭はご招待いただき、参列させていただきました。

正行辞世の歌「かゑらじとかねて思えハ梓弓 なき数にいる名をぞとどむる」を刻んだ板塀の残る吉野山如意輪寺は、延喜年間、日藏上人の草創で、延元元年1336年に後醍醐天皇が吉野山に行幸されると勅願寺と定められました。(写真：後醍醐天皇陵正辰祭の様子)

南北  
朝期以降、室町時代に入ると如意輪寺は衰退著しくなります



が、江戸時代の初期、鉄牛上人が入山し、浄土宗に改め再興し、今日に至っています。

延元4年1339、8月16日(新暦9月27日)後醍醐天皇が崩御すると、如意輪寺境内塔尾山の一角に葬られますが、同寺は塔尾陵を一途にお守りして来られました。

正辰祭は、天皇が歴代天皇陵にお参りされる祭礼で、皇居で天皇が拝礼される午前10時に合わせて、同じ日の同じ時間に、塔尾陵で参列、拝礼を行うものです。

この日、宮内庁職員の先導のもと、静寂の中、厳粛に正辰祭が執り行われました。

普段入ることの許されない天皇陵内に入り、身の引き締まる思いの中で、拝礼の儀式に臨みました。その後、ご本堂で天皇忌法要が営まれました。

参拝者の中に、楠頼八生氏(楠正儀末裔)、和田直大氏(和田氏末裔)、菊池武則氏(菊池の会会長)、平木氏(地下衆末裔)ら、多数の吉野朝関係者がおられ、大変有意義な意見交換をすることができました。また、この日、四條畷楠正行の会東京支部長の広木さんも参拝され、情報交換をすることができました。

(文責「四條畷楠正行の会」代表 扇谷昭)